

1 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立東淀工業高等学校
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	・工業の専門的な資格取得者数 ・競技会等への参加及び成績向上
計画名	「東淀ロボット人材創出計画ーロボット Sier の育成」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成</p> <p>（3）専門分野の技術・技能の向上を図る。また、社会の要請に応える新たな「ものづくり教育」に挑戦していく。</p> <p>○令和5年度学校経営推進費「東淀ロボット人材創出計画ーロボット Sier の育成」</p>
事業目標	<p>①技術力の育成</p> <p>基礎的な電気・電子技術や制御技術の向上。ロボット Sier（*）をめざして、ロボットシステムの構築や制御プログラミングなど高度な技術力を習得する。現場で必要とされる技術に応じた最新の技術情報を取り入れ、生徒たちに最先端の技術に触れる機会を提供する。</p> <p>*ロボット Sier（ロボットシステムインテグレーター）：最適なロボットシステムを設計し、制御のプログラミングなどを行うエキスパート</p> <p>②チームワーク能力の育成</p> <p>ロボットシステムの構築には複数の技術分野を統合的に取り扱う必要がある。そのため実習においては、生徒たちにチームワーク能力を育成することが重要となる。生徒たちが自らアイデアを出し合い、協力して課題を解決するとともに、実際のロボットシステム構築の現場で必要なコミュニケーションスキルを身につけるため、プレゼンテーションやディスカッションなどの活動を積極的に取り入れる。</p> <p>③イノベーション力の育成</p> <p>現代社会において、常に新しい価値を創造するイノベーション力が求められている。生徒が自らアイデアを出し合い、創造的な解決策を導き出す力を育成することが重要である。問題提起の方法や、課題解決に向けたアイデアの出し方を指導する。また、社会的な視点を取り入れ、ロボットシステムが解決すべき社会問題について考えることで、社会貢献意識を高める。</p>
整備した 設備・物品	協働ロボット・AI・IoT 学習システム 株式会社バイナス製 BRT/CBT
取組みの 主担・実施者	主担：機械工学科 首席教諭 実施者：機械工学科 全教員
本年度の 取組内容	12月に設備が設置され、3年課題研究「ロボットプログラミング」班の生徒が動作を確認した。生徒達は6月から愛知県主催の「高校生ロボットインテグレーション競技会」に参加

	<p>しており、ロボットに関する基本的な値機器・技能を習得している。生徒達と相談して、令和6年度から機械工学実習のテーマとして実施するための教材を作成した。また、3月14日に機械工学科教員対象の技術研修会を実施した。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>①国家資格技能検定シーケンス制御作業受験者数（20名以上） ②ロボットS I 検定受験者（10名以上） ③「高校生ロボットインテグレーション競技会」応用課題完成 ④「ロボットアイデア甲子園！」地方大会出場</p>
自己評価	<p>①技能検定シーケンス制御作業受験者数 11 名 ……………（△） ②ロボットS I 検定受験者（受験者なし）……………（△） ③「高校生ロボットインテグレーション競技会」三菱電機部門優秀賞受賞……………（◎） ④「ロボットアイデア甲子園！」大阪大会2名出場……………（△）</p>
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・技能検定やロボットSI 検定の受験料が高額なため、受験できる生徒が少ない。 「高校生ロボットインテグレーション競技会」において、令和7年度から本校が所持しているロボットが対象外となる。また「ロボットアイデア甲子園！」は出場者が多く、全国大会出場枠1名を獲得するのは難しい。 ・資格取得については、引き続き生徒に声掛けを行う。 「高校生ロボットインテグレーション競技会」については、愛知県への貸与を希望する。 「ロボットアイデア甲子園！」については、プレゼンテーション資料の充実を図る。